

アジサイ新品種 「栃木 a10 号」「栃木 a11 号」「栃木 a12 号」の育成

小玉雅晴・寺内信秀¹⁾・船山卓也²⁾・木田理紗子³⁾・杉山直美・菊地あすか⁴⁾
西川史・田邊雄太⁵⁾・佐川翠・宇田川久美子⁵⁾・生井潔

摘要：アジサイ新品種「栃木 a10 号(商標名:キャンディポップ)」「栃木 a11 号(商標名:スターポップ)」および「栃木 a12 号(商標名:ジュエリーポップ)」を育成した。3品種は、八重咲き性でがく片に複色が発現する特性を育種目標とし、きらきら星(八重咲き・ガクアジサイ型・複色)を種子親、栃木県農業総合研究センター保有中間母本系統(一重咲き・ガクアジサイ型・複色)を花粉親として交配した同じ組み合わせに由来する姉妹品種である。「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」の花序の形は平型～球型で、「栃木 a12 号」の花序の形は球型である。装飾花は3品種ともに八重咲き性で、がく片数は「栃木 a10 号」が 10 枚、栃木 a11 号 13 枚、栃木 a12 号 11 枚である。装飾花の大きさがそれぞれ異なり、装飾花の直径は「栃木 a10 号」が 5.4cm、「栃木 a11 号」が 6.9cm、「栃木 a12 号」が 3.0cm である。3品種ともに、がく片の色は覆輪タイプの複色で、希少性の高い赤色覆輪であり、培養土の種類による花色変化も少なく、花色が安定している品種である。

キーワード：アジサイ, 八重咲き, 複色

A New Hydrangea Cultivar “Tochigi No. a10” “Tochigi No. a11” and “Tochigi No. a12”

Masaharu KODAMA, Nobuhide TERAUCHI, Takuya FUNAYAMA, Risako KIDA, Naomi SUGIYAMA, Asuka KIKUCHI,
Fumi NISHIKAWA, Yuta TANABE, Midori SAGAWA, Kumiko Udagawa, Kiyoshi NAMAI.

Summary: New hydrangea cultivars ‘Tochigi No. a10’, ‘Tochigi No. a11’ and ‘Tochigi No. a12’ were derived from the cross between parental line/ ‘Kirakiraboshi’. The present study was carried out to obtain the cultivars with double flowered, picotee type. The inflorescences of ‘Tochigi No. a10’ and ‘Tochigi No. a11’ is flat ~ spherical, and ‘Tochigi No. a12’ is spherical in shape. Three varieties of decorative flowers are double-flowered, and the number of sepals is 10 sepals of ‘Tochigi No. a10’, 13 of ‘Tochigi No. a11’, and 11 of ‘Tochigi No. a12’. Decorative flowers have notches on the edges of the sepals. The size of the decorative flowers is ‘Tochigi No. a10’ (5.4 cm), ‘Tochigi No. a11’ (6.9 cm), and ‘Tochigi No. a12’ (3.0 cm). In all three varieties, the color of the sepals is a double color of the sepal type, which is along with red on the outside, and the flower color changes little depending on the type of potting soil, and the flower color is stable.

Key words: hydrangea, double flower, picotee type

1) 栃木農政部経営技術課 2) 現栃木県下都賀農業振興事務所 3) 現栃木県上都賀農業振興事務所 4) 現栃木県芳賀農業振興事務所 5) 元栃木県職員

I 緒言

栃木県の鉢物アジサイは、1980年代からシクラメンと組み合わせた品目として鉢物経営に導入されてきた。また、生産者が独自に品種改良に取り組み、多くのオリジナル品種を作出し、全国有数の産地として発展してきた。2019年産の栃木県における年間生産額は約1億円4千万円で、鉢花としてはコチョウラン、シクラメンに次ぐ品目となっている。近年では、カーネーションと並び「母の日」に贈る人気のギフト商材として定着しており、特徴のある品種は高単価で市場取引が行われている。こうした背景から、栃木県農業総合研究センター（以下、農研センター）では、希少性の高い八重咲き性と複色の特性を併せ持ち、鉢物栽培に適した品種の開発に取り組み、2010年に「きらきら星」を品種登録出願し、2015年に品種登録された（小玉ら、2015）。また、2018年に「パラソルロマン」、2019年に「エンジェルリング」、「プリンセスリング」を品種登録出願し、2025年に品種登録された（寺内ら、2022; 菊地ら、2023）。これらの品種は、価格が低迷している現在の鉢物花き市場においても、その花型の希少性から高単価で取引されており、鉢物経営の安定化に寄与している。このたび、これらに続く品種として「栃木 a10 号（商標名：キャンディポップ）」、「栃木 a11 号（商標名：スターポップ）」、「栃木 a12 号（商標名：ジュエリーポップ）」の3品種を育成し、2022年に品種登録出願を行い、2023年出願公表となったので育成経過とその特性を報告する。

II 育成経過

農研センターにおいて、八重咲き性で、複色の特性を持ち、装飾花の主色が濃赤色を発現する品種育成を目標に、2014年にきらきら星（八重咲き・ガクアジサイ型・複色）を種子親、赤色覆輪の特徴を有する農研センター保有中間母本系統（一重咲き・ガクアジサイ型・複色）を花粉親として交配を行った。同年に播種して実生約2,200個体を得た。2016年にそのうちの1個体を自殖し、同年播種して323個体の雑種第2世代を得た。2016年以降、八重咲き性識別 DNA マーカーおよび開花形質により有望と考えられる3系統を選抜し、2019年「あじさい栃木 10 号」、「あじさい栃木 11 号」、「あじさい栃木 12 号」の系統番号を付した。特性調査、現地適応性試験の結果、装飾花の大きさ、装飾花主色の発色および開花形質が優れたことから、2022年10月に品種登録を出願し、2023年3月に、「あじさい栃木 10 号」は「栃木 a10 号」、「あじさい栃木 11 号」は「栃木 a11 号」、「あじさい栃木 12 号」は「栃木 a12 号」として出願公表となった。

III 特性の概要

1. 形態的および生態的特性

「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」、「栃木 a12 号」の外観を第1図、第2図および第3図に、また、農林水産省アジサイ特性調査基準（一部抜粋）に基づく形態的および生態的特性を第1表に示した。3品種ともに植物体は開張性で、樹高は“中”、茎の皮目の数は“中”である。葉は、葉身の形は“卵形”、葉身の切れ込みは“有”である。葉身の長さおよび葉身の幅は“中”、葉身の主な色は「栃木 a10 号」は“濃緑”、「栃木 a11 号」、「栃木 a12 号」は“緑”、光沢は3品種とも“中”である。

花序の外観を第4図、第5図および第6図に示した。「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」の花序の型は“平型～球型”、両性花の明瞭度は“中”、両性花の花弁の色は“桃”である。装飾花の数は“少”、装飾花のがく片の重なりは“極強”、装飾花の直径は“中”である（実測値：「栃木 a10 号」は5.4cm、「栃木 a11 号」が6.9cm）。装飾花のがく片の色数は“2色以上”で、2次色の分布は“周縁部”である。「栃木 a12 号」の花序の型は“球型”、両性花の明瞭度は“無又は弱”である。装飾花の数は“中”、装飾花のがく片の重なりは“極強”、装飾花の直径は“小”である（実測値：「栃木 a12 号」3.0cm）。装飾花のがく片の色数は“2色以上”で、2次色の分布は“周縁部”である。出願時の花色は、装飾花の主色が「栃木 a10 号」は鮮紫ピンク（日本園芸植物標準色票値 9705）、「栃木 a11 号」は紫ピンク（同 9203）で、「栃木 a12 号」が淡紫ピンク（同 9202）である。周縁部の色は「栃木 a10 号」が明紫赤（同 9706）、「栃木 a11 号」が鮮紫赤（同 9707）、「栃木 a12 号」が明赤紫（同 9206）である。

3品種ともに、装飾花の花色の経時的な変化性は“有”である。装飾花がく片周縁の切れ込みは“有”、装飾花がく片の数は7以上（実測値：「栃木 a10 号」10枚、「栃木 a11 号」13枚、「栃木 a12 号」11枚）である。生態的特性の花色の変化性は、栽培土壌条件などにより花色が異なるため“有”である。

2. 栽培特性

1) 系統適応性検定試験

第2表、第3表および第4表に、各品種の系統適応性試験（2年目）の成績を示した。栃木県内4カ所の現地農家および農研センターでの栽培では、開花程度を考慮した場合、装飾花の形質、花色の発現に大きな差は認められず、商品性は良好であった。したがって、3品種はすべて栃木県内での栽培に適すると判断された。

2) 花色の変化性試験

異なる培養土での装飾花の発色を第 5 表に示した。赤系用土（赤玉土、ピートモス、腐葉土、パーライトを 40 : 40 : 13 : 7 で配合した培養土、pH6.0）と青系用土（赤玉土、調整ピートモス、腐葉土を 3 : 1 : 1 の体積比で配合した培養土、pH5.5）の栽培比較の結果、「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」および「栃木 a12 号」の花色は、培養土が異なる場合でも、花色はほとんど変化せず安定していると判断された。ただし、青系用土では赤系用土よりも、樹高が低くやや生育が劣る傾向にあった（データ省略）。

3) 育苗期の摘心時期試験

育苗期の摘心時期が開花形質に与える影響を第 6 表、第 7 表および第 8 表に示した。摘心日が遅くなるにつれ、到花日数が長くなる傾向がみられ、開花日のばらつきや未開花株が生じた。品種間の到花日数の違いを見ると、「栃木 a11 号」は、他品種に比べ長く、8 月 20 日摘心では、3 日～5 日程度、8 月 30 日摘心では、4 日～9 日程度長くなった（第 6 表～第 8 表）。

3. 栽培上の留意点

栃木県の鉢物アジサイは、母の日向けの促成栽培が中心的な作型である。育成した 3 品種は、既存の栃木県育成品種（きらきら星、パラソルロマン、エンジェルリング、プリンセスリング）と同様に花芽分化しやすい特性を持ち、ゆえに早期出蕾しやすい。そのため、株養成時の最終摘心は 8 月 20 日頃に行うことが望ましい。ただし、「栃木 a11 号」の到花日数は、他品種に比べ長いことから、他と同時期の出荷を目指す場合は、定植後の加温開始を 1 週間程度早める必要がある。

また育苗については、近年、高温による育苗期の生育不良が問題となっている。健全な育苗のためには、5 月下旬までに挿し木を終了することが望ましい。

IV 考察

アジサイ新品種「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」および「栃木 a12 号」は、2024 年から生産者による市場出荷が開始された。既存の県育成品種「きらきら星」、「パラソルロマン」、「エンジェルリング」および「プリンセスリング」と異なる赤色覆輪を有する装飾花が特徴的であり、「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」は花型がガクアジサイ型からアジサイ型へと変化していく中間型の特性を持つことから、

従来品種と差別化できる品種である。

これらの品種が有する赤色覆輪は、「キヨスミサワ」由来の形質を導入した。小玉ら（2023）は、赤色覆輪の発現には 2 つの独立した顕性（優性）遺伝子が関連すると推定し、赤色覆輪を持つ個体は葉身が赤色に着色する特徴を明らかにしている。本品種育成時においても、赤色の葉身をもつ個体は、すべて赤色覆輪を発現した。栽培経験の中で、赤色覆輪を持つ品種の多くは、開花初期には周縁部に強い赤色を発現するが、開花が進むにつれて赤色が消失してしまう傾向がみられることが多い。しかし、本品種を育成した交配組合せにおいては、開花盛期まで装飾花の赤色覆輪が安定的に発現する個体を多く獲得できた。このことから、今回供試した親系統や育成した 3 品種は、今後の同形質の導入に有用な母本であると考えられる。

「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」および「栃木 a12 号」は、農研センターでは樹高が約 40 cm になるが、現地農家における系統適応性試験では 10 cm 程度低い結果となった。その原因として、各農家では草姿や輸送性向上のためにわい化剤による草姿コントロールが行われているためである。花房が大きく、花梗が徒長しやすい「パラソルロマン」では、摘心後 10 日と定植後 10 日の 2 回、ダミノジット顆粒水溶剤を散布することで草姿改善効果が認められている（栃木農試,2023）。育成した 3 品種についても、安定した規格品を生産するためには、わい化剤処理を含む栽培技術の統一が必要と考えられる。

育成した 3 品種は、培養土の配合や pH に関わらず、安定した花色を示した。過去の報告において、パラソルロマン、エンジェルリングおよびプリンセスリングでは、安定した花色発色のためには、5 号鉢で基肥のリン酸成分量が 10 g/鉢以上必要であるとされていることから（栃木農試,2023）、3 品種についても今後、適切な施肥量を明らかにする必要がある。

また、アジサイの花芽分化は、一般的に 9 月下旬から開始されることから、母の日需要向けの作型では、8 月中旬までに摘心することが望ましいとされている（樋口,1986）。一方で、これまでの本県育成品種では、8 月 10 日頃では開花が早く、9 月 10 日頃では開花日が遅れる傾向があることが示されている（栃木農試,2016；栃木農試,2023）。「栃木 a10 号」、「栃木 a11 号」および「栃木 a12 号」においても、同様の傾向がみられたことから、最終摘心は 8 月 20 日～30 日の間に行うことが望ましいと考えられた。

農研センターでは、育種目標である八重咲き性の選抜について、DNA マーカーを利用した選抜手法の開発を進めてきた（阿久津ら 2017, Waki ら 2018, Nashima ら 2020）。八重咲き性については、巢山ら（2008, 2012）は潜性（劣

性) 遺伝であり, 雑種第 2 代を利用した八重咲き形質の作出方法が有効であることを報告している。「栃木 a10 号」, 「栃木 a11 号」および「栃木 a12 号」は, 選抜過程において八重咲き性識別 DNA マーカーを活用した初めての品種となった。この方法の活用により, 雑種第 2 代において 323 系統から 58 系統を実生段階で選抜でき, アジサイ育種の効率化に大いに貢献した。今後は, アジサイ型の形質を持つ個体や発色安定性などの形質を, 育苗初期の段階で選抜可能な DNA マーカーの開発が期待される。

アジサイの品種は移り変わりが非常に早く, 希少性の高い品種への期待は大きい。継続的な新品種の作出は, 産地の強みとなり, マーケティング戦略として効果的であるといえる。

謝 辞

本品種の育成に当たり, 農研センターの高崎恭子技査, 中嶋崇技査ならびに花き研究室のパート職員の皆様には, 試験ほ場の管理, 調査, 分析等において多大なるご尽力をいただいた。また, 本稿を執筆するに当たり, 花き研究室をはじめ関係者の方々には貴重なご助言, ご指導をいただいた。ここに記して心から感謝の意を表する。

引用文献

阿久津翠・和氣貴光・生井潔・小玉雅晴 (2017) あじさいの八重咲き性と手まり咲き性を識別する DNA マーカーの開発。栃木県農業試験場。研究成果集第 35 号 49-50

樋口春三 (1986) 花卉園芸の事典。pp366-371。朝倉書店。東京。

小玉雅晴・坂本あすか・渡辺強 (2015) アジサイ新品種「きらきら星」の育成。栃木農試研報 73 : 27-33。

小玉雅晴・田邊雄太・杉山直美・寺内信秀 (2023) アジサイの赤色覆輪の色素構成と遺伝特性。栃木農試研報 87 : 11-17。

菊地あすか・寺内信秀・杉山直美・田邊雄太・小玉雅晴・船山卓也 (2023) アジサイ新品種「エンジェルリング」「プリンセスリング」の育成。栃木農試研報 87:1-9。

Nashima K, Shirasawa K, Ghelfi A, Hirakawa H, Isobe S, Suyama T, Wada T, Kurokura T, Uemachi T, Azuma M, Akutsu M, Kodama M, Nakazawa Y, Namai K.(2020) Genome sequence of *Hydrangea macrophylla* and its application for analysis of double flower phenotype.

BioRxiv 10.1101/2020.06.14.151431

巢山拓郎・谷川孝弘・山田明日香・佐伯一直・中村知佐子・國武利浩・松野孝敏 (2008) ハイドラングア装飾花の一重及び八重咲き性の遺伝。園学研 7 (別 2) : 293

巢山拓郎・谷川孝弘・山田明日香・佐伯一直・中村知佐子・國武利浩・松野孝敏 (2012) ハイドラングア装飾花の一重及び八重咲き性の遺伝 (第 2 報)。園学研 11 (別 1) : 189

寺内信秀・杉山直美・木田理紗子・小玉雅晴・田邊雄太・船山卓也 (2022) アジサイ新品種「パラソルロマン」の育成。栃木農試研報 86 : 35-40。

栃木県農業試験場 (2016) あじさい「きらきら星」の栽培技術。栃木農試新技術シリーズNo.20

栃木県農業試験場 (2023) あじさい「パラソルロマン」「エンジェルリング」「プリンセスリング」の栽培技術。栃木農試新技術シリーズNo.21

T.Waki, M. Kodama, M. Akutsu, K. Namai, M. Iigo, T. Kurokura, T. Yamamoto, K. Nashima, M. Nakayama and M. Yagi(2018) Development of DNA Markers Linked to Double-Flower and Hortensia Traits in *Hydrangea macrophylla* (Thunb.) Ser 2018.J. Japan. Soc. Hort. Sci. 87 (2): 264.

アジサイ新品種「栃木 a10 号」「栃木 a11 号」「栃木 a12 号」の育成



第1図 あじさい新品種「栃木 a10 号」



第2図 あじさい新品種「栃木 a11 号」



第3図 あじさい新品種「栃木 a12 号」



第4図 栃木 a10 号 花序



第5図 栃木 a11 号 花序



第6図 栃木 a12 号 花序

第1表 栃木 a10 号, 栃木 a11 号, 栃木 a12 号の形態的特性

区別	形質名	栃木a10号	栃木a11号	栃木a12号
植物体	生育型	非つる性	非つる性	非つる性
	樹型	開張	開張	開張
	樹高	中	中	中
	樹幅に対する樹高	縦長	縦長	ほぼ同等
茎	茎の節間長	長	長	中
	茎の色	緑	緑	緑
	茎の皮目の数	中	中	中
葉	葉身の長さ	中	中	中
	葉身の幅	中	中	中
	葉身の切れ込みの有無	無	有	有
	葉身の形	卵形	卵形	卵形
	葉身の先端部の突出部分の長さ	中	中	中
	葉身の先端部の形	鋭尖形	鋭形	鋭尖形
	葉身の基部の形	丸形	丸形	丸形
	葉縁の鋸歯の深さ	深	深	深
	葉身の主な色	濃緑	緑	緑
	葉身の光沢	中	中	中
花	花序の型	平型～球型	平型～球型	球型
	花序の高さ	低	低	中
	花序の幅	中	中	中
	花序の両性花の明瞭度	中	中	無又は弱
	花序の装飾花の配列	二列	二列	-
	花序の装飾花の粗密	-	-	密
	花序の装飾花の数	少	少	中
	装飾花の直径	中	中	小
	装飾花のがく片の数	7 以上	7 以上	7 以上
	装飾花のがく片の姿勢	半直立	半直立	半直立
	装飾花のがく片間の節間伸長	無又は極弱	無又は極弱	無又は極弱
	装飾花のがく片の長さ	中	中	短
	装飾花のがく片の幅	中	中	狭
	装飾花のがく片の形	卵形	広卵形	卵形
	装飾花のがく片の先端の形	尖形	尖形	尖形
	装飾花のがく片のしわ	無又は弱	無又は弱	無又は弱
	装飾花のがく片の重なり	極強	極強	極強
	装飾花のがく片周縁の切れ込みの有無	すべてのがく片に有	すべてのがく片に有	すべてのがく片に有
	装飾花のがく片周縁の切れ込みの深さ	中	中	中
	装飾花の花色の变化性の有無	有	有	有
	装飾花のがく片の色数	2 色以上	2 色以上	2 色以上
	装飾花のがく片の主な色	鮮紫ピンク (9705)	紫ピンク (9203)	淡紫ピンク (9202)
	装飾花のがく片の二次色	明紫赤 (9706)	鮮紫赤 (9707)	明紫赤 (9706)
	装飾花のがく片の二次色の分布	周縁部	周縁部	周縁部
	装飾花のがく片の二次色の型	一樣	一樣	一樣
	装飾花のがく片の二次色の割合	小	小	小
	装飾花の小花柄の色	桃	桃	桃
	両性花の花弁の色	桃	桃	-
生態的特性	開花始期	中	中	中

注1. 農林水産省アジサイ特性調査基準による特性値

2. 装飾花の主な色、複色、花色は日本園芸植物標準色票による識別

第 2 表 栃木 a10 号 系統適応性試験（2 年目）

注1. 装飾花の色は日本園芸植物標準色票にて表示

	花 序 形	花序径 (cm)	装飾花 径(mm)	装飾 花数	がく片 数	装飾花の色		樹高 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)
						主色	複色			
宇都宮市	中	16.4×14.4	38×33	49.0	9.0	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	32.7	8.1	5.4
鹿沼市-1	間	21.0×21.3	51×50	34.8	11.3	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	29.3	7.4	4.8
鹿沼市-2	型	19.6×18.6	50×51	23.8	10.5	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	31.2	7.2	5.0
栃木市		16.8×18.1	47×52	52.3	13.0	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	31.7	8.1	4.4
農研センター		17.9×17.9	47×47	13.0	9.9	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	39.4	9.3	6.5
ピンキーリン グ(対照)		21.8×23.1	65×69	9.0	13.5	9501:淡紫ピンク	8910:浅赤味紫	47.0	14.3	10.0

第3表 栃木 a11 号 系統適応性試験（2年目）

第4表 装飾花の色は日本園芸植物標準色票にて表示
第4表 栃木 a12 号 系統適応性試験（2年目）

	花 序 形	花序径 (cm)	装飾花 径(mm)	装飾 花数	がく片 数	装飾花の色		樹高 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)
						主色	複色			
宇都宮市	中	18.1×16.0	53×53	15.0	12.7	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	33.8	9.9	6.0
鹿沼市-1	間	16.6×16.8	58×58	9.0	14.5	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	28.5	7.5	4.0
鹿沼市-2	型	15.3×17.2	56×58	7.0	13.0	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	31.4	9.9	5.5
栃木市		16.0×15.9	58×60	10.0	13.5	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	36.6	8.8	4.6
農研センター		20.0×20.3	61×59	11.9	12.6	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	40.3	9.4	6.2
ピンキーリン グ(対照)		21.8×23.1	65×69	9.0	13.5	9501:淡紫ピンク	8910:浅赤味紫	47.0	14.3	10.0

注1. 装飾花の色は日本園芸植物標準色票にて表示

	花 序 形	花序径 (cm)	装飾花 径(mm)	装飾 花数	がく片 数	装飾花の色		樹高 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)
						主色	複色			
宇都宮市	ア	15.8×14.9	30×29	164.0	11.7	9202:淡紫ピンク	9206:明赤紫	30.3	9.0	5.3
鹿沼市-1	ジ	16.9×16.1	28×32	125.0	11.3	9202:淡紫ピンク	9206:明赤紫	32.0	7.4	4.2
鹿沼市-2	サ	17.7×18.4	29×30	179.5	12.0	9502:淡紫ピンク	9706:明紫赤	33.1	8.5	5.4
栃木市	イ	17.4×17.0	35×36	138.5	12.0	9702:淡紫ピンク	9706:明紫赤	35.3	8.4	5.1
農研センター	型	17.1×16.0	30×30	197.6	11.0	9502:淡紫ピンク	9506:明赤紫	42.9	11.1	6.8
カレン(対 照)		19.6×18.2	51×48	81.0	10.5	9504:鮮紫ピンク	9501:淡紫ピンク	36.8	11.4	7.2

第5表 培養土の違いによる装飾花の発色

	赤系用土での装飾花の色		青系用土での装飾花の色	
	主色	複色	主色	複色
あじさい栃木 10 号	9505:鮮紫ピンク	9706:明紫赤	8603:浅紫	8905:明赤味紫
あじさい栃木 11 号	9203:紫ピンク	9707:鮮紫赤	8604:明紫	9507:鮮赤紫
あじさい栃木 12 号	9502:淡紫ピンク	9506:明赤紫	9502:淡紫ピンク	9506:明赤紫

注1. 装飾花の色は日本園芸植物標準色票にて表示

第 6 表 栃木 a10 号 摘心日と開花形質の関係

区	摘心日	開花日	到花 日数	旧枝長 (cm)	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
1	8 月 10 日	4 月 18 日	82	3.9	40.0	15.8	43.9
2	8 月 20 日	4 月 25 日	89	1.8	37.7	15.3	39.5
3	8 月 30 日	4 月 28 日	92	2.7	34.8	16.6	37.5
4	9 月 10 日	4 月 28 日	92	3.3	44.3	18.0	47.5

注 1. 挿し芽を 2021 年 5 月 17 日に行い, 7 月 1 日に 2.5 号鉢鉢上げ, 2022 年 1 月 27 日に定植した. 温度管理は, 換気温度を 22℃とし, 最低温度 13℃を目標に管理した.

第 7 表 栃木 a11 号 摘心日と開花形質の関係

区	摘心日	開花日	到花 日数	旧枝長 (cm)	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
1	8 月 10 日	4 月 28 日	92	4.3	39.3	20.4	43.6
2	8 月 20 日	4 月 28 日	92	3.6	39.5	22.3	43.1
3	8 月 30 日	5 月 2 日	96	4.8	38.8	19.7	43.6
4	9 月 10 日	5 月 20 日	114	1.5	45.2	21.1	46.7

注 1. 挿し芽を 2021 年 5 月 17 日に行い, 7 月 1 日に 2.5 号鉢鉢上げ, 2022 年 1 月 27 日に定植した. 温度管理は, 換気温度を 22℃とし, 最低温度 13℃を目標に管理した.

第 8 表 栃木 a12 号 摘心日と開花形質の関係

区	摘心日	開花日	到花 日数	旧枝長 (cm)	開花枝長 (cm)	花序径 (cm)	株高 (cm)
1	8 月 10 日	4 月 20 日	84	2.8	41.9	17.8	44.6
2	8 月 20 日	4 月 23 日	87	3.6	35.7	19.6	39.2
3	8 月 30 日	4 月 23 日	87	4.3	39.7	19.9	44.0
4	9 月 10 日	開花せず	-	3.0	-	-	60.8

注 1. 挿し芽を 2021 年 5 月 17 日に行い, 7 月 1 日に 2.5 号鉢鉢上げ, 2022 年 1 月 27 日に定植した. 温度管理は, 換気温度を 22℃とし, 最低温度 13℃を目標に管理した.